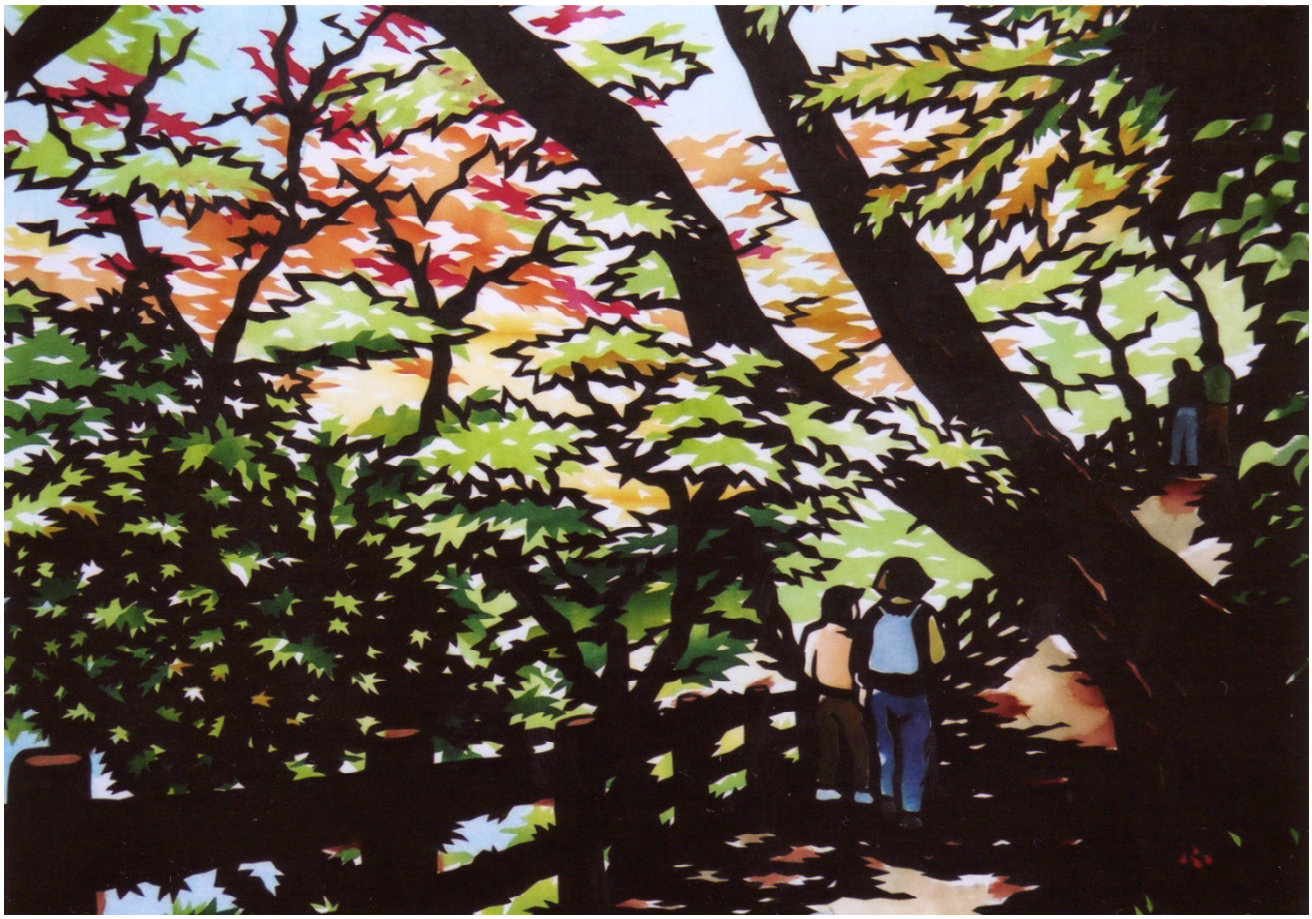
かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314



遊歩道（帝釈）

おつとめ奉仕者の増員

・一人ひとりが日々に真実を尽す
・布教によるおつとめ奉仕者の増加
・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
10月号

談話室

第65回英語講習会を終えて

川島郷分教会　香取雅人

川島郷の会長は、実は76才だった！？

昭和43年に始まった英語講習会は今回で65回目を迎えました。私は中2の夏、13歳のとき第3回英語講習会に初めて参加して以来ずっと参加し続けていますので、回数だけで単純に計算すれば76歳ですが、決してそうではありません。と申しますのも、本部で開催される「春の学生おぢばがえり」とほぼ日程が重なるために現在は毎年夏に一度だけの開催ですが、以前は春にも英語講習会が開催されていたからです。

さて、今回から小学校高学年まで門戸を広げたため、大変賑やかで楽しい講習会を開催させて頂き、参加者26名、スタッフ13名の合計39人が参加しました。私が大学生だった頃の夏には、スタッフと受講生を合わせて200名を超える時もありましたので、少し寂しいようですが、「英語」を冠する講習会が65回も続いているということ自体が驚異的なことだと思います。

「英語を学ぶことは言葉を学ぶこと、つまり相手の心を学び、お互いが理解し合える方法を身に付けることです」と、大教会長様よりお聞かせ頂いたように、英語講習会も「にをいがけ、おたすけ」の一環であり、その根底には、世界たすけへの熱い思いがこもっているのです。

しかも、現在はTLI・天理教語学院から信仰的にも優れたプロの英語講師（今回は、東中央部属：デイビッド井上氏26才・ハワイ出身）を派遣していただき、58人に分けられたグループに、教育経験者や留学経験者中心の優秀なスタッフ等と大学生や高校生のアシスタントがついて指導に当たり、パソコンや様々な教材を活用しつつ、少人数のメリットを最大限に活かした授業を面白く楽しく展開しています。

英語講習会ってどんなことするの？

今回の内容を少しご紹介いたしますと、早朝の朝づとめから一日が始まり、英語のゲームなどを交えた英会話の基礎レッスンが2日間で7回、身体を動かす楽しいゲームの時間が2時間、パソコンを使った英語レッスンが1時間、ひのきしん、海外部の先生のお話、英語講師の体験講話（もちろん日本語です）などもあり、夜には楽しくて心の暖まる映画を観ました。

そして、最終レッスンでは暗記コンテストが行われ優秀者には賞状と賞品が贈られました。

このような英語講習会が1泊2日間、おいしい食事におやつもついて1500円（宿泊費、受講料オール込み）というのはまさに驚きであり、大教会長様を初め諸先生、奥様方の親心以外の何者でもないと、私は思います。

期間中、本当に暑い中、ひのきしんの心で誠意を持ってお勤め下さいました全ての皆様がたに心よりお礼申し上げます。

どうか、この伝統ある講習会の灯を消すことなく、次回英語講習会への参加のお声がけをして下さることと同時に、今後ともご協力ご指導下さいますよう心よりお願い申上げます。

立教百七十年

「こどもおぢばがえり」

稲瀬分教会　三宅　美恵子

現在私は男一人女三人、四人の子供の母親です。主人は書道教室を営んでおり、いつもたくさんの子供達に囲まれ元気いっぱい笑顔あふれるにぎやかな毎日を過しています。互いに勤めをしていますので教会の御用ができず申し訳なく思っています。ですからこどもおぢばがえりは精一杯勤めようと二人で心定めをしています。

私は子供が大好き、こどもおぢばがえりが大好き、好きなことは苦にならないといいますか、子供達と関わっているということが、生きているという実感につながっているように思います。だから私は次々と新しい子供達との出会い、関わりを感謝の気持ちで受け入れます。好きな子、苦手な子、いろいろな子供がいます。子供達との関わり合いが私を成長させてくれていると思っています。

今年もおぢばがえりの最終日に、小学二年生の男の子が東礼拝場の階段に座りこんで泣きながら

「帰りたくない」

と動かなくなり、事情を聞いてみると、

「家に帰るとお父さんとお母さんがけんかしていて見るのがつらい」

との事でした。子供の様子を見て、主人は涙が止まらなかったそうです。

後で、両親は離婚し、男の子が家でさみしくうつむいていたと聞き、残念でなりませんでした。

来年は、この子を一番に誘っておぢばに帰らせていただこうと心に誓っています。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌九月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「天」、選五十九句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀　詠　東悠分教会前会長夫人　田林　美智子

天の声直き心に明日あり

◆秋季大祭お帰り講話

【日　　時】　１０月２５日午後７時
【会　　場】　笠岡詰所
【講　　師】　小南部部属　法奥金沢（ほうおくかなざわ）分教会長、布教の家青森寮派遣講師
　　高　渕　　徹　先生

◆第８３回天理教青年会総会

【日　　時】　１０月２７日（土）午前１０時
【会　　場】　本部中庭
※ご参加下さいます方は、各ブロック青年会委員にお尋ね下さい。

◆各行事に参加ご希望の方は、
各ブロックの担当者にお申し込みください

第８００期修養科募集要項

＊修養科期間
立教１７０年１２月１日～立教１７１年２月２７日

＊教　養　掛
３ヶ月間　中　村　　剛　（大教会役員・久 松 分教会長）
１ヶ月目　藤　井　治　喜　（福 節 分教会長）
２ヶ月目　鳥　井　利　昭　（福 勇 分教会長）
３ヶ月目　三　代　信　行　（米 美 分教会長）

＊募集要項
・志願者は、１２月末日現在で満１７歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
・１１月２５日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
・３ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、来年２月２９日の昼食後に解散。

＊教　科　書（必須）
『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

＊参　考　書（出来れば持参）
『おてふり概要』、『なりもの練習譜』（笛・打楽器または三曲）、『おやしき・史跡案内』。

＊携　行　品
おつとめの扇、筆記用具、認印、笛（男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ）。

＊服　　装
ハッピ及び帯・バンド、長ズボン（又は、それに類するもの）、靴。

書　　類	大教会	詰所	備　　考
「順序参拝票」	○	○	
「別　席　願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席　　札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会　御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本　部　御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会　御供	○		
本　部　御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、２００円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」		○	

大教会だより

＝教会指令＝

◎任命願
福東分教会
＊前任　藤井宣人
＊新任　藤井保人
☆奉告祭　立教170年11月4日
立教170年9月26日承認

◎第七九四期修養科
自　立教170年6月1日
至　立教170年8月27日

＊教養掛
三ヶ月間　杉原博之（明石市分教会長）
一ヶ月目　時宗一実（吉舎分教会長）
二ヶ月目　福島大介（福満分教会長）
三ヶ月目　矢田哲一（八尋分教会長）

＊修了者
福芦　福芦永戸大希
福芦　青山透

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一　慎んで申し上げます
　親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに　子供かわいい一条の変わらぬ親心と慈しみ深い御守護のままに日々は結構に恙なくお連れ通り頂きます事は誠に有難く勿体ない極みでございます
私共は常に喜びと感謝の心で生活（くら）させて頂いておりますが　子供達の多くが我欲に走り　心から味わう喜びを知らずに居ます事は誠に残念でなりません　一人でも多くの子供に親心の有難さと「かしものかりもの」の喜びを伝えたいものと　朝に夕にと御礼申し上げつつ　今月は特ににをいがけ強調の月を意識して　にをいがけ、おたすけにと勤め励ませて頂いております　その中でも今日の吉日は九月の月次祭を執り行う日柄でございますので　おつとめ奉仕者一同たすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます
　御前には理に繋がる道の子供達が残暑厳しき中も厭わず　今日の日を楽しみに寄り集い相共にお歌を唱和し　改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして　親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
　さて　次の塚すなわち教祖百三十年祭に向け　道の後継者育成を目指して教会長おやさと研修会に引き続き　後継者講習会が始まりました　参加を促す事はもちろん　私達自身が丹精させて頂く上からも　よふぼく一人ひとりが心を定めて日々親神様教祖にお受け取り頂ける理作りに励み　おつとめ奉仕者増員に繋げさせて頂く所存でございます　更には来月大祭参拝をさせて頂き　年頭の心定めの確認をし　本年残された月日　心定め完遂を目指し精一杯勤め切る事を誓い合いたいと存じます
　何卒親神様には旬々にお聞かせ頂く親の声を頼りに　力の限りに成人の道を歩む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして　万たすけの上に不思議自由の御守護をお現し下さり　人々が一列兄弟の理に目覚めて睦び合い助け合って　お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

芦原　純子
真金　猪原　恵み
上備　折林　智子

◎教会長資格検定講習会修了者

前期　立教170年９月14日終講
照陽　中村元彦
稲讃　國方泰志
米府　三代幸徳
眞府　高田一弘
稲倉　北川雅子
眞府　住川泰子

道行けば　頭を垂れる　稲穂かな

余りの酷暑に行く夏を見失い、既に深まり行く秋をも見失いかけてしまっていた。
連日連夜三十数度を記録した炎暑も少し落ち着いて、路傍の秋桜花に目が向いた。
都会では目にすることのできない稲穂も、田舎では、当たり前の風物詩として目を楽しませてくれる。

秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます
本席様の御霊　初代真柱様並びに奥様の御霊　二代真柱様の御霊　大教会創設の祖　上原佐吉大人
八重刀自の御霊　初代会長上原さと刀自の御霊　二代会長上原伊助大人光刀自の御霊　三代会長上
原繁雄大人くにゑ刀自の御霊　四代会長上原郁雄大人の御霊　大教会草創の頃より歴代会長と共に
ご苦労下さり今日の礎を築いて下さいました役員　部内教会長　教人　よふぼく　信者の御霊
諸々の御霊の前に　会長上原理一慎んで申し上げます
祖霊様方には親神様教祖にいんねんを見定められ　早くからこの道に引き寄せられて真実の親心に触れ　ご御報じ一筋にたすけ一条の道を歩まれました　今日お道が結構な姿をお見せ頂いておりますのも親神様教祖の御守護、お導きの賜である事は申すまでもありませんが　又一つには祖霊様方のそうした真実の伏せ込み理作りの賜と日々朝に夕にと御礼申し上げつつ　祖霊様方の真実に一歩でも近づきたいものと　たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております　分けても本日は
秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので只今はおつとめ奉仕者並びに部内教会長代表一同　親神様の御前にて　てをどりをつとめさせて頂きました　ゆかりある人々も寄り集い御前に海山川野の旬の物を供え御遺徳を称え言改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして　祖霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて次の塚である教祖百三十年祭に向け成人の歩みは始まったばかりであります「おつとめ奉仕者の増員」との思いは部内端々まで行き届いた感はありますし　それが実動として現れている所もあります　只増員を御守護頂くための年祭に架けての日々の理作りはまだ〳〵　の感があります
先人が残して下さった中に「元もと道はなかった　毎日まいにち歩いて道がついた笠岡のミち」という言葉があります　一日の理作りはたとえわずかでも毎日積み重ねる事によってどれ程大きなものになるかしれません　先を楽しみに　親神様教祖に真実を受け取って頂けるよう日々の御用はもちろん　理作りも精一杯勤めさせて頂く所存でございますので
何卒祖霊様方には親の後を慕い　親孝心一筋に懸命に道を歩む皆の真実の心をお受け取り下さいまして　次の塚には大きな成人の姿を御守護頂けますよう　お見守りお力添えの程を慎んでお願い申し上げます

私は、稲穂を見るたびに、毎年のように思うことがある。それは、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」のことわざである。
大体、稲穂を見ると容易に連想される言葉ではあろうが、その次に私の脳裡に出てくるのは、決まって、「偉そうな奴」の顔である。
そして、そいつの顔を連想した自分を更に嘆く。
なぜなら、
【意味】学問や徳を積んで人間が出来れば出来るほど、人は謙虚になって他人に対して謙虚に振る舞うものである、威張る者には徳が足りないのだ、ということ。
だからである。
本来、この言葉の次に連想されるべきは、「自分自身だ」と……。
単に、「……人は謙虚になって他人に対して謙虚に振る舞うものである」ぐらいに思っていたが、「威張る者には徳が足りない」というおまけが付いている。
つまり、偉そうにするのは徳がないからであって、秋は、徳積みの大切さを思い知らされる季節である。
自分では徳人のような顔をしていても、頭を垂れることができないようなら、これは不徳の至りであって、否、むしろ、徳人は、徳人のような顔をしないのかも知れない・・・。
こうして、秋の夜長は更けていく。　（お）